

● みんなで描く1枚の絵

今年度のA・B両クラスの最初の課題は、大きな長方形の画用紙1枚に、みんなで絵を描くというものです。クラスの一人一人が、どんなものが好きで、何を描きたいかを発言し、それらをどんなふうに「ひとつの絵」としてまとめていけば面白いのか、対話をするところから、制作は始まりました。新しい仲間を迎え、これから1年間過ごして行くにあたって、互いを知り、また、日頃から意見を言い合えるクラスの空気ができれば、という願いがそこにはあります。それが「仲間と絵画をする」意義だと信じるからです。普段一人ではなかなか向き合う機会のない大きな画面を相手にすることも、自分の描いている絵が思いもよらないところへつながっていく驚きがあるのも、この課題の醍醐味です。描いていく過程においても、互いの対話は欠かせません。そこでは、相手の意見や描くものを尊重する姿勢が何より大切です。

今回の絵は、我々講師も一緒になって描いていきます。使用画材は絵の具とクレヨンです。目下制作中である両クラスの作品が、どのような個性たちによって、どのような対話によって膨らんでいったか、そのプロセスをどうぞご覧下さい。

・A(火曜) クラス



「人がサルみたいだった昔の世界」や「お化け」を描いてみたいと言うT君。一方、「海を描くのはどう？」というHちゃんの提案に賛同するMちゃん、Sちゃん。宇宙が大好きなH君。



それらをひとつの世界にするにはどうしたらいいかな？
画用紙のタテ・ヨコは？海と陸と宇宙の境目は？話し合いが続きます。



お化けのいる街を描くことにしたT君は、描きながら恐竜というモチーフを思い付きました。

よく見ると、魚や惑星の模様にも、クレヨンと絵の具の両方が使われています。これは、先に塗ったクレヨンが後から重ねられた絵の具をはじく効果を利用した描き方です。



「ねえ、ジンベエザメの尻尾って、どんな形してるの？」家から持参した図鑑で調べてみても、横から見た形しか載っていません。Mちゃんは、「こんな形かな、それともこんな形？」と試行錯誤しながら、イメージを膨らませて、描ききってくれました。

・B(木曜) クラス

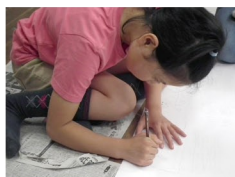
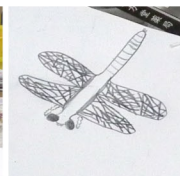


みんな、何を描きたい？
『ちょう小動物』を描きたい！（Tちゃんのオリジナルキャラクター）
「気球に乗って飛び立つ場面にしない？」
「どこから飛び立つの？」
「森がいいね。」
「空はどのくらいの広さ？」



「画用紙がヨコの方がよくない？空が広がるよ。」
「それなら、タテに使う方が広い感じがしない？」
「森と空との境目がどの辺かによって、それぞれ空の広さは変わるよ。」
「何だかやっぱりタテの方がいい気がしてきた。」

「本当だ！タテにしよう！」
「私はピアノとか、好きな楽器を描きたいな。」
「じゃあ、森の動物たちが演奏会をしている場面は？」
「森の中だから、Y君の大好きな虫たちも沢山住んでいるよね！」
「カブトやクワガタ描いていい？」



「舞台の端はこの辺かなあ。」
「え〜と、動物ってあと何がいたっけ・・・(客席の動物たちを描きながら)」
「ラッパって、どんな形だったかなあ・・・」
「虫たちも演奏を聴いているはずだよな。」
「森の向こうの山に、夕焼けが見

えているのはどう？」
「いいと思う！何だか森の秘密の演奏会みたいだね！」
「森の緑ってどうすればいいかなあ・・・」
「夕焼けが当たって光っている部分もあれば、闇に沈む深い緑色もあるはずだよな。」・・・